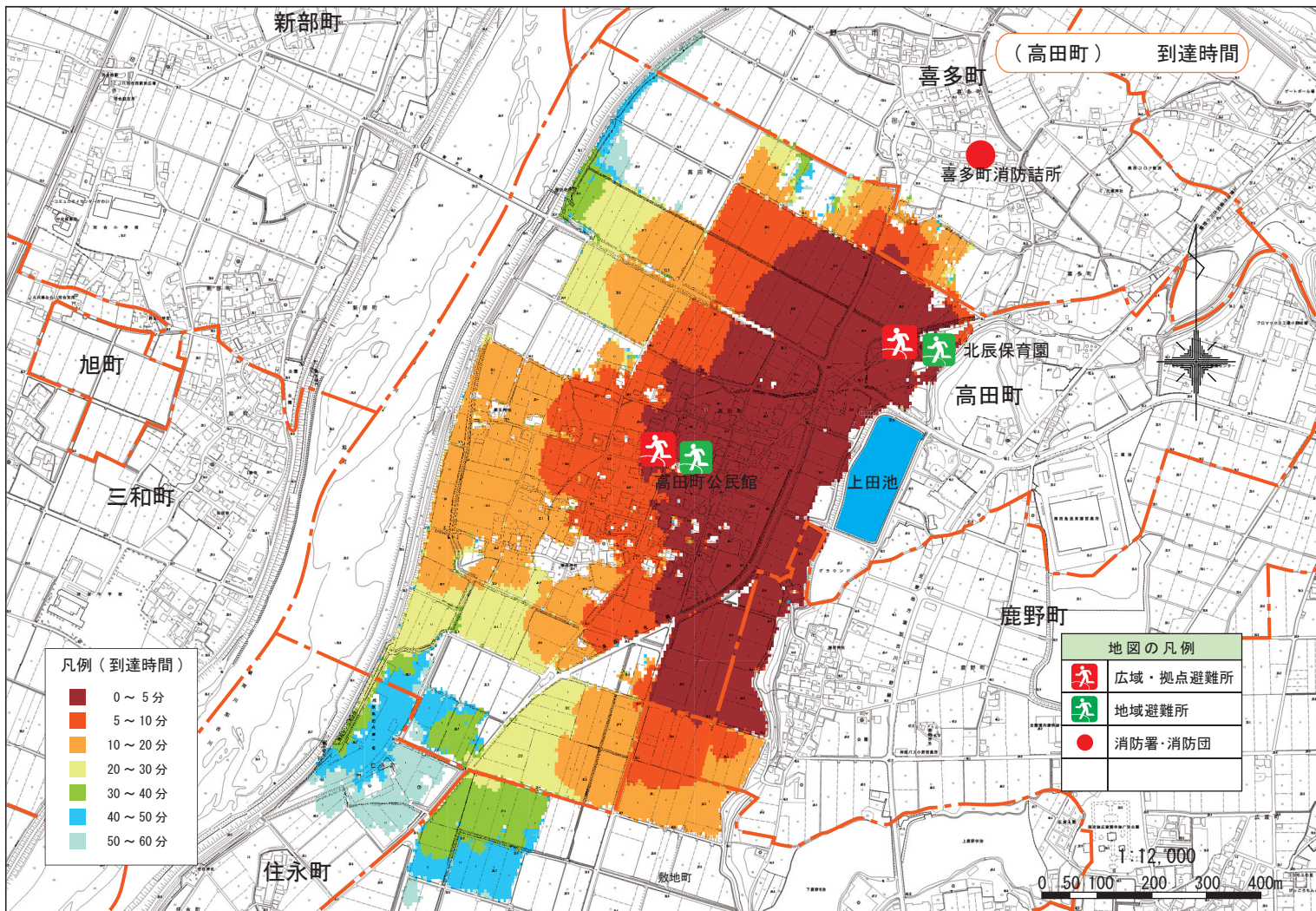
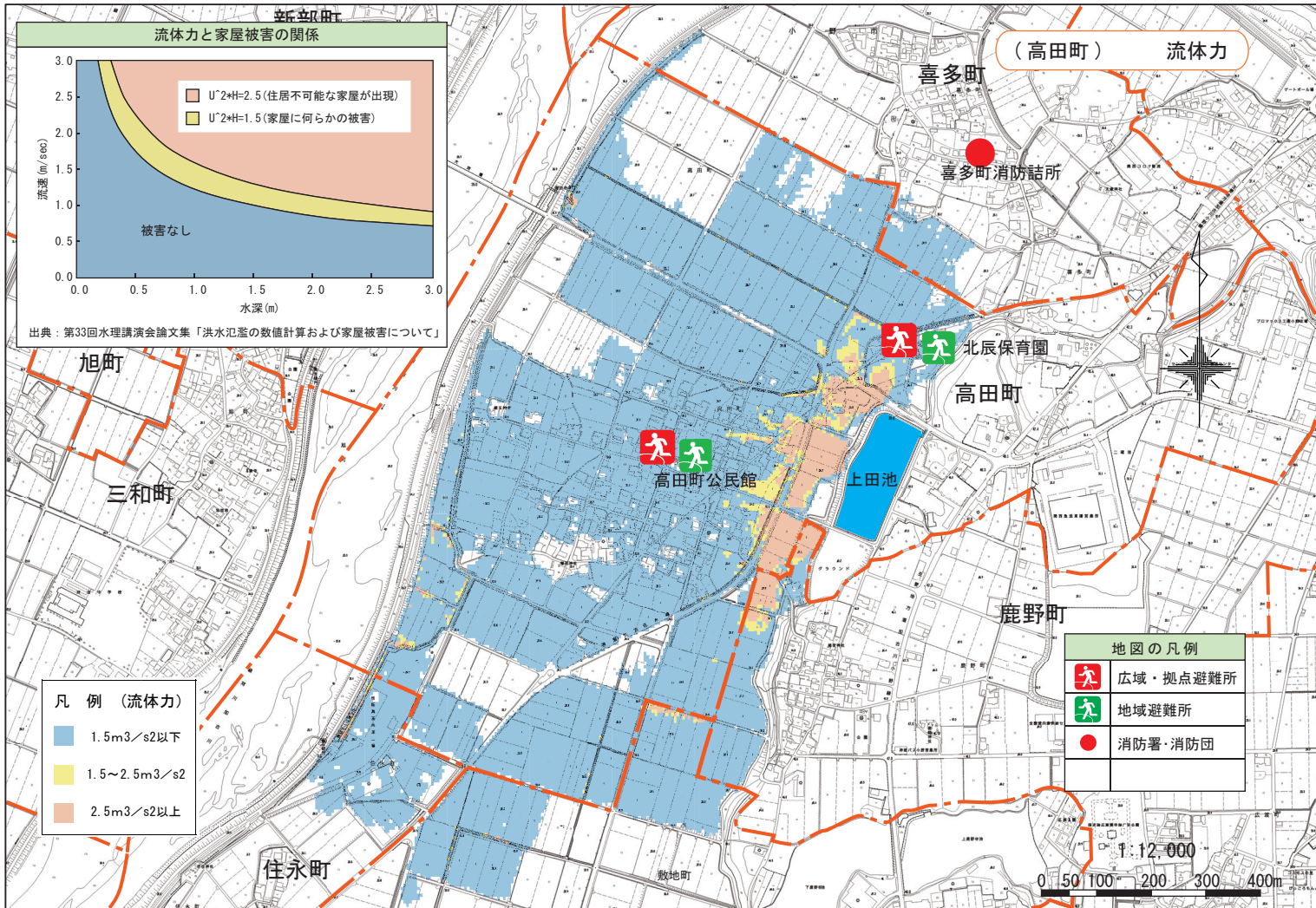




防災マップ

家族が避難する場所を決めたら自宅から避難場所への安全なルートを実際に歩いて危険なものはないか確認してみましょう。



緊急連絡先カード

自分について		家族・関係者の連絡先	
名前		名前	電話番号
住所		名前	電話番号
電話番号		名前	電話番号
生年月日	血液型	名前	電話番号
家族で決めた避難場所		名前	電話番号

地震がきたら

①身の安全を守る

大きなゆれは1分くらい。机の下にもぐって座布団などで頭を守ろう。

②あわてず落ち着く

食器のかげらなどガラスを踏まないように周りの様子を確かめて行動しよう。

③出口をつくる

建物がゆがむとドアが開かなくなります。窓を開けて逃げ道をつくろう。

④外では周りに注意する

倒れそうな自動販売機やブロック塀には注意落ちてきそうな看板にも注意しよう。

⑥逃げる時はすばやく

山くずれ、崖くずれはあっという間におそってきます。すばやく非難しよう。

⑤指示にしたがう

学校では先生、電車では駅員さん、デパート等では係の人の指示にしたがおう。

地震の大きさ

震度3(弱震)

屋内でほとんどの人が揺れを感じ、恐怖感もある。棚の食器が、音を立てることがある。

震度4(中震)

眠っている人のほとんどが目覚める。歩行者も揺れを感じ、電球が大きく揺れる。

震度5弱(強震)

棚から食器や本が落ち、家具の移動も起こる。壁や柱が破損する。

震度5強(強震)

棚から多くの物が落ち、たんすや補強不足のブロックが倒れる。弱い住宅はかなり破損する。

震度6弱(烈震)

立っているのが困難。多くの家具が移動、転倒。弱い住宅は、倒壊するものがあり地割れや山崩れも起こる。

震度6強(烈震)

立っていられない。家具のほとんどが移動、転倒。弱い住宅の多くは倒壊し、強い住宅でも壁や柱が破損する。

震度7(激震)

自分の意思で行動できない。家具が飛び、強い建物でも大きく破壊されるものがある。大規模な地滑りや山崩れがおこる。

非常時持ち出し品

貴重品

現金、権利証書、預貯金通帳、免許証、健康保険証

携帯ラジオ

予備電池

非常食品

乾パン、缶詰など火をとおさなくても食べられるもの
ミネラルウォーター、水筒など

応急医薬品

ばんそうこう、傷薬、包帯、抗生物質、病人やお年寄りの常備薬等

懐中電灯

予備電池

衣類

下着、上着、タオル、紙オムツなど

洗面用具

歯ブラシ、せっけん、生理用品など

近々起きそうな地震

東海地震

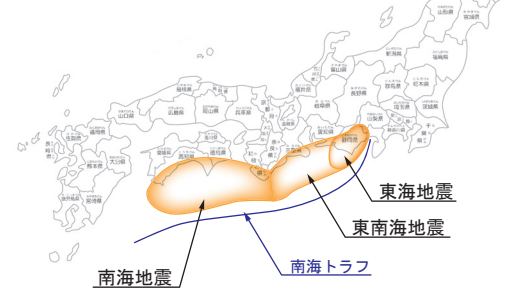
浜名湖南方沖の遠州灘中部から静岡県沼津市沖の駿河湾に至る駿河トラフ下のプレート境界（沈み込み帯）で、周期的に発生する海溝型地震。規模はマグニチュード8.0級と予想されている。

東南海地震

紀伊半島沖から遠州灘にかけての海域（南海トラフの東側）で周期的に発生する海溝型地震。規模は毎回 マグニチュード8.0前後に達する巨大地震で、約100年から150年周期で発生している。

南海地震

紀伊半島の紀伊水道沖から四国南方沖を震源とする周期的な巨大地震。マグニチュード8.0級の海溝型地震が約100年～150年周期で発生している。



東海地震、東南海地震、南海地震は、同時発生する連動型巨大地震も懸念されており、3連動地震、南海トラフ巨大地震ともいわれる。

マグニチュードと震度の違い

マグニチュード

地震そのもののエネルギーの大きさ

震度

それぞれの場所でのゆれ方の度合いを表し日本固有のもの